

**11/17(金)19:00-20:00 「2023 年度 2Q 決算電話会議」説明要旨****1. 小宮 CEO プレゼン**

- 皆様、こんばんは、こんにちは。小宮でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当社をご支援いただき、感謝申し上げます。
- まず、はじめに、私から、「今回の決算内容」と「これらも踏まえ、経営としてのメッセージ」について、ご説明させていただきます。

**【Key Messages】**

- 3 ページをご覧ください。本日お伝えしたいポイントは、大きく 3 点となります。
- 1 点目は、当社事業の「基調」についてです。  
足元の当社業績は、自然災害や北米におけるキャピタル損失等の影響を一定受けておりますが、「一過性の影響」等を除いた利益の基調は、海外の主要拠点を中心に、「引続き良好である」ということです。  
実際に、Normalized ベースの通期利益予想は、今般、+50 億円上方修正し「6,750 億円」、対前年で「+9%成長」を見込んでおります。
- 2 点目は、「株主還元」についてです。  
予てご説明の通り、「当社事業の利益成長と、DPS Growth は整合的であるべきだ」という私共の考えは、変わりません。足元の利益基調は引続き「良好」ですので、2023 年度の DPS は、年初計画通り「121 円」、DPS Growth で+21%を維持いたします。
- また、「資本ストックの調整」に関しましても、規律をもって実行いたします。足元の ESR は「133%」と、充実した水準にあることに加え、「グループ内の事業再編に伴う一過性の利益」も、これから生じる見込みです。その中で、足元の M&A パイプラインなども総合的に勘案し、2023 年度の自己株式取得を、年初公表の「年間 1,000 億円」から、「1,200 億円に拡大」することといたしました。
- この辺りは、後ほど CFO の岡田より、ご説明いたします。
- そして、3 点目は、お客様、資本市場の皆様へ、ご心配をお掛けしております、「東京海上日動における“一連の事案”」についてです。
- まず、「ビッグモーター社による、保険金の不正請求等」につきましては、8 月にリリースの通り、当社は、お客様の被害回復を最優先に、「お車の安全点検サポート」や、「プロアクティブな等級訂正のご案内」など、各種対応を引続き、真摯に、進めております。
- また、「保険料の調整行為」に関しましては、こちらは 9 月末にリリースをしておりますが、足元も、引続き、複数の社外弁護士を起用した特別調査委員会による調査を、継続しているところです。調査内容に関する、具体的なご説明はできませんが、東京海

上日動における、再発防止に向けた取組み、その徹底した履行を、HDとして指導・監督していくことに加え、グループレベルでのガバナンスの強化・向上に向けた打ち手につきましても、順次実行し、皆様にご安心をいただけるところまで、しっかりと取り組んでまいります。

- それでは、先ず、1点目の「足元の利益基調」につきまして、少し詳しくご説明をしたいと思います。4ページをご覧ください。

### 【トップライン】

- まず、トップラインです。
- 上期の実績は、正味収入保険料が「+7.5%の増収」、生命保険料は「▲1.3%の減収」となっておりますが、いずれも、年初の通期予想を上回るペースで進捗しています。この数字には、円安効果も含まれる訳ですが、「除く為替」で見ましても、「海外のレートアップや引受拡大」、「国内の新種保険増収」など、基調は「良好」と申し上げてよろしいかと思えます。
- 従いまして、今般、通期予想も「上方修正」いたします。具体的には、「除く為替」で、対前年、「正味収入保険料は+3.6%」、「生命保険料は▲1.7%」を見込むことといたします。
- 次に、修正純利益についてご説明します。5ページをご覧ください。

### 【修正純利益 2Q 実績の評価】

- グループ全体の「上期実績は 2,755 億円」、「年初の通期予想対比の進捗率は、約 41%」となり、「過去 5 年平均の進捗率、約 44%」を、やや下回る水準となりますが、これは、自然災害や国内損保における円安影響など「一過性の影響」等が主因でありまして、それらを捨象した「基調は、引続き“良好”」です。より具体的な中身について、事業別にご説明いたします。
- まず、国内の「東京海上日動」ですが、
  - ① 「7月の震災」や「複数の台風」の影響から、自然災害予算の費消が早いこと、
  - ② 円安進行に伴い、外貨建て支払備金の積増し等が発生したことから、「見た目の進捗率」は低くなっていますが、これら「一過性の影響」等を除けば、概ねオンペースでの進捗となっています。
- また、足元自動車保険の損害率が年初予想以上に上昇していますが、当社は、これに対し、来年 1 月に商品・料率改定を実行いたしますし、新種保険を中心としたトップライン拡大も順調です。
- 次に、「海外保険」ですが、「円安に伴う増益効果」を除きました「上期進捗率は 49%」と、概ね計画通りの進捗です。
- これは、「8月の第 1 四半期決算発表」の際にお伝えいたしました「カラー」から「変更はありません」で、具体的には、「自然災害」や「北米におけるキャピタル損失」、「海外ランオフ受再契約に係るリザーブ積増し」といった悪影響を、「DFG やブラジル TMSR など、主要拠点における好調な保険引受利益」と、「北米のインカム収益の増加」が打

ち返し、海外全体では、概ね計画通りの進捗となったものです。

- 次に、足元状況も踏まえました「通期予想」につきまして、ご説明しますので、6 ページをご覧ください。

#### 【修正純利益の通期予想 (Actual ベース)】

- 「Actual ベースの修正純利益」の「2023 年度“着地”」ですが、年初予想対比 ▲150 億円下方修正となる「6,550 億円」、対前年では「+6%成長」を見込んでおります。
- これは、「海外主要拠点における、好調な保険引受」や、株価上昇に伴う「政策株式の売却益増加」等を見込む一方で、ハワイ山火事を含む「自然災害発生保険金の増加」や、「北米におけるキャピタル損失の増加」の影響を織り込んだものです。
- なお、「北米キャピタル損失」の内、「過半」は「CECL 引当を計上」したものです。これは、「金利上昇や、オフィス需要の悪化など、足元の不動産市況」を踏まえて、**deep dive** したのですが、当社としましては、長期・予測可能な資金特性を活かし、今後も適切なリスク管理の下で、しっかりと運用してまいります。
- 続いて、7 ページをご覧ください。

#### 【修正純利益の通期予想 (Normalized ベース)】

- こちらは、「平年を上回る自然災害」などの「一過性の影響」を除いた「Normalized ベース」の利益予想となります。  
ある意味で、2024 年度利益の「発射台」となる、当社の「足元“実力値”を表すもの」と言えますが、年初予想対比で+50 億円上方修正の「6,750 億円」を見込んでおります。前年度の Normalized 利益対比では、「+9%成長」となりますが、「当社の実力は、着実に引き上がっている」、そう申し上げたいと思います。
- そして、この利益成長のドライバーは、引続き「ボトムフォーカスの、強い保険引受」と、これを背景とした「強いインカム収益」であり、それは即ち、「世界トップクラスの利益成長」を“Organic に”実現している、と言えようかと思えます。  
まさに当社は、この「利益成長という“旅の途中”」にある。従来とは異なるステージに立っている。その中でも、更なる高みに向けた歩みを着実に進めていきたい、この様に考えております。
- 一旦、私からは以上です。

## 2. 岡田 CFO プレゼン

### 【株主還元】

- CFO の岡田でございます。次に、株主還元についてご説明させていただきますので、8 ページをご覧ください。
- これまでもお伝えの通り、当社の株主還元の基本は配当であり、「利益成長に応じて、持続的に DPS を高めていく」方針です。  
先程、小宮からご説明の通り、2023 年度の Actual ベースの修正純利益は、「一過性の影響」等により、「若干の下方修正」とはなりますが、配当原資となる「5 年平均の修正純利益」は、「4,000 億円から 4,750 億円」へと、概ね「年初予想と同水準」にまで増加しています。従いまして、2023 年度の DPS は、年初計画通り「121 円」、「DPS Growth で+21%」を維持いたします。
- 続きまして、資料 9 ページをご覧ください。  
「資本水準の調整」、その手段としての「自己株取得」ですが、こちらに関するスタンスも変わりません。即ち、従来同様、当社の企業価値、ROE 向上に資する M&A やリスクテイクの案件があればそれを「実行」し、機会に恵まれなければ、「自己株式取得を実行」いたします。
- その中で、足元の ESR は 133%と、ターゲットレンジ内ですし、充実しています。
- 加えまして、資料 42 ページに記載しておりますが、北米の Pure 株式を、他の海外グループ会社と同様に「東京海上日動“直下”」に移管することに伴いまして、結果として、「400 億円程度」の「一過性の利益」が生じる見込みです。  
この利益は、当社の修正純利益の定義上、控除される、つまり反映されないものではありませんが、「当社純資産の増加」を通じて、来年 3 月末の ESR には反映されるものです。
- これらの状況に、「足元の M&A パイプライン」、「事業環境」等を「総合的に」勘案しまして、2023 年度の自己株式取得を、年初にお示した「年間 1,000 億円」から、「1,200 億円に拡大」することいたしました。  
具体的には、既に 500 億円は、上期に決議・実行済みですので、「700 億円の実行」を、本日開催の取締役会において、新たに決議しております。
- 当社といたしましては、引続き、経営戦略を着実に実行し、EPS も ROE も引き上げていく、そして、資本市場の皆さまのご期待に応えていきたい、このように考えております。
- 私からのご説明は以上です。

### 3. 小宮 CEO プレゼン

#### 【ガバナンス関連】

- 改めまして、小宮でございます。最後に私から、「ガバナンス関連」につきまして、「経営としての考え」など、お話しさせていただきます。
- 資料の 10 ページには、この度、「東京海上日動で発生しました“一連の事案”」について記載しておりますが、こちらは冒頭ご説明差し上げました通りでございます。  
個別案件への対応や再発防止策など、当社自身の取組みは当然のこととしまして、国内損保業界全体の、透明性を伴った変革にも、主体的に貢献をしてみたい、その様に考えております。
- そして、資料の 11 ページには、国内の事案だけに止めるのではなく、海外も含めまして、「HD としての課題認識と打ち手の方向性」を載せております。
- 当社事業がグローバルに拡大、多様化している中で、また拠点ごとの内部統制機能の発揮度にも濃淡が生じる中、「HD としての関与」を、従来以上に強化することが望ましい拠点もあるのではないかと。
- また、従来から、各種態勢の整備や強化を進めてはいるものの、「多様な」「社外の視点」を、更に活用する余地があるのではないかと、など、HD として、課題認識を持っております。
- 来週の IR 説明会にて、「次期中計の定性目標」を公表いたしますが、「グループレベルでのガバナンス強化」は、柱の大きなひとつです。
- 「社外の視点」も活用しながら、「グループ一体経営」を、もう一段進化させ、「成長とガバナンスが高位に両立する“High Quality”経営」を必ず実現してまいります。
- 引続きのご支援をよろしくお願いいたします。
- 私からのご説明は以上です。

以 上